

講義科目名称： 老年看護学演習

授業コード： 2230300300

英文科目名称： Practice in Gerontological Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
◎東條紀子、原等子、大倉由貴、青山拓夢、金井香織、小長谷百絵			
添付ファイル			

授業種類	<p>【開講】 前期</p> <p>【授業時間】 15時間</p> <p>【担当教員】</p> <p>【氏名】</p> <p>◎東條 紀子</p> <p>原 等子</p> <p>大倉 由貴</p> <p>青山 拓夢</p> <p>金井 香織</p> <p>小長谷 百絵</p> <p>【研究室】</p> <p>308</p> <p>303</p> <p>共同研究室4</p> <p>共同研究室4</p> <p>共同研究室4</p> <p>共同研究室4</p> <p>213</p> <p>【本学の科目区分】</p> <p>専門科目</p> <p>【保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める種類】</p> <p>看護師課程</p> <p>【DP1】 【DP2】 【DP3】 【DP4】 【DP5】 【DP6】 【DP7】</p> <p>○ ◎ ○</p>
------	--

到達目標	<p>1. 高齢者の潜在能力と生活の質に着眼した看護過程を展開するための基礎的能力を修得する.</p> <p>2. 加齢による心身社会的な機能の変化に加え, 慢性疾患, 身体障害, 認知機能障害などを複雑に併せ持つ高齢者の状態変化を察知するための能力とケアに必要な行動調整能力を修得する.</p>
------	--

授業概要	<p>1. 高齢者の個性をふまえた看護過程 (情報収集から看護計画立案, 実施, 評価のサイクル) を根拠をもとにして論理的に思考することができる.</p> <p>2. 高齢者の個別的な能力とリスクを考慮した生活の支援技術を習得する.</p> <p>1) 高齢者の個性に配慮し看護計画と連動した技術手順書を作成する.</p> <p>2) 看護計画, 技術手順書により実践に適応する際の留意点を, 実演をとおして学ぶなかで, 高齢者の持てる能力を最大限に活かし, リスクを適切に配慮した対応ができる.</p> <p>3. グループメンバーと協同し, 学習課題達成に向けた学修を主体的にできる.</p>
------	---

授業計画	<p>1 授業内容 授業形態: 講義 対面 学習課題: ガイダンス 学習内容: 老年看護の原則と看護過程と看護技術手順書, ケアの個性 備考: 東條, 原, 小長谷, 大倉, 青山, 金井</p> <p>2 授業内容 授業形態: 演習 グループワーク 対面 学習課題: 高齢者のリスクを踏まえた自立をたかめる技術手順の検討① 学習内容: 高齢者の老化および疾患や障害による心身機能を踏まえた看護技術の実践方法 (口腔ケア) 備考: 原, 東條, 大倉, 青山, 金井</p> <p>3 授業内容 授業形態: 講義 演習 グループワーク 対面 学習課題: 看護過程 看護上の課題の探索 学習内容: ストレngthsに着目した看護の視点を考える 備考: 東條, 原, 大倉, 青山, 金井</p> <p>4 授業内容 授業形態: 演習 グループワーク 対面 学習課題: 高齢者のリスクを踏まえた自立をたかめる技術手順の検討② 学習内容: 高齢者の老化および疾患や障害による心身機能を踏まえた看護技術の実践方法 (移動支援) 備考: 東條, 大倉, 青山, 金井, 原</p> <p>5 授業内容 授業形態: 演習 グループワーク 対面 学習課題: 高齢者のリスクを踏まえた自立をたかめる技術手順の検討③ 学習内容: 高齢者の老化および疾患や障害による心身機能を踏まえた看護技術の実践方法 (食支援・ポジショニング) 備考: 東條, 大倉, 青山, 金井, 原</p> <p>6 授業内容</p>
------	---

	<p>7</p> <p>授業形態：講義 演習 グループワーク 対面 学習課題：看護過程 具体的な看護支援を考える 学習内容：強みを活かしたケア方法を考える 備考：東條，原，大倉，青山，金井</p> <p>授業内容</p> <p>授業形態：演習 グループワーク 対面 学習課題：高齢者のリスクを踏まえた自立をたかめる技術手順の検討④ 学習内容：高齢者の老化および疾患や障害による心身機能を踏まえた看護技術の実践方法（排泄援助） 備考：東條，大倉，青山，金井，原</p> <p>8</p> <p>授業内容</p> <p>授業形態：講義 対面 学習課題：総括 学習内容：高齢者ケアにおけるリスクマネジメントと行動計画の必要性 備考：東條，原，大倉，青山，金井，小長谷</p>
事前・事後学習	<p>自己学習を実施したうえで講義・演習に臨みましょう． 事前学習：具体的に実習で高齢者をケアしていくイメージが持てるよう，既習知識を踏まえて，高齢者のケアの考え方（尊厳，自立，参加，リハビリテーションなど）について考えてみましょう． ユマニチュードは基本，バリデーションテクニック，パーソンセンタード・ケアについて学習しておく，理解がすすみやすくなります． 事後学習：事前に自己学習した内容と演習での学びを合わせて，多様な高齢者に対する具体的な看護の方法を想像しつつ，実習に向けて主な技術の手順書を整理し，技術練習をしていきましょう．</p>
評価方法、評価基準	到達目標1，2に対し，看護過程提出物：30％，技術手順書提出物：40％，成果発表：30％として総合評価を行う．
必携図書	<p>北川公子ほか：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 第9版，医学書院，2018．（購入済） 亀井 智子編：根拠と事故防止からみた老年看護技術 第3版，医学書院，2020．（購入済）</p>
参考図書・資料等	<p>1) 山田律子編：生活機能からみた 老年看護過程 第4版，医学書院，2020． 2) 迫田綾子編：誤嚥予防，食事のためのポジショニング POTTプログラム，医学書院，2023． 3) 西村かおる：排泄ケアブック コンチネンスケアに強くなる，学研マーケティング，2009． 4) 中島紀恵子ほか（監）：高齢者の生活機能再獲得のためのケアプロトコル 連携と協働のために，日本看護協会出版会，2010． ＊上記の他，老年看護学Ⅰ，Ⅱで使用した図書ならびに配布資料</p>
受講、課題、資料配布等のルール	<p>初回にコース概要を配布．追加資料がある場合は演習開始時間前に配布． 各回の演習内容によって集合時間，場所が変則的になるので各自留意して参加のこと．</p>
教員からのメッセージ	<p>既習の知識や技術を活用し，実践力を身につけるために，積極的・主体的に学習をしていきましょう．特に，高齢者は様々なリスクが生じやすく，その対応のために制限をしがちですが，高齢者の持てる力，生命力と忍耐力などの様々な力を把握して，自立を支援することについても考えていきましょう．</p>
オフィスアワー	